

武蔵野市外国籍市民意識調査報告書 概要版

令和4年2月 武蔵野市

国が推進する「地域における多文化共生推進プラン」の策定、見直しの要請を受け、「武蔵野市多文化共生推進プラン（仮称）」を策定するため、外国籍市民の多分野での生活支援のためのニーズ等について実態を把握し、検討の基礎資料とするため、調査を実施しました。

調査概要

調査対象	アンケート調査及びインタビュー		属性別ヒアリング調査
	アンケート調査	インタビュー	
調査対象	令和3年9月30日時点で武蔵野市の住民基本台帳に登録されている18歳以上の外国籍市民	アンケート調査にてインタビュー協力の意思表示があった方	アンケート調査に回答しにくいことが予想される方や外国籍市民と関わりがある日本人など
調査期間	令和3年10月25日(月)から11月15日(月)まで	令和3年11月20日(土)から12月5日(日)まで	令和3年11月5日(金)から12月1日(水)まで
調査対象数等	2,841名 回収件数：1,225件 回収率：43.1%	58名	・市内大学留学生 2名 ・日本語初学者 ^{※1} 9名 ・外国につながる子ども ^{※2} 7名 ・外国籍市民コミュニティ 4名 ・外国籍市民と関わりがある日本人 (外国籍市民を雇用している法人) 1名

※1：MIAの日本語学習支援を受けている市民のことを指します。

※2：両親またはどちらかの親が外国籍である、日本語が母語でない、などの背景をもつ子どものことを指します。

アンケート調査及びインタビュー

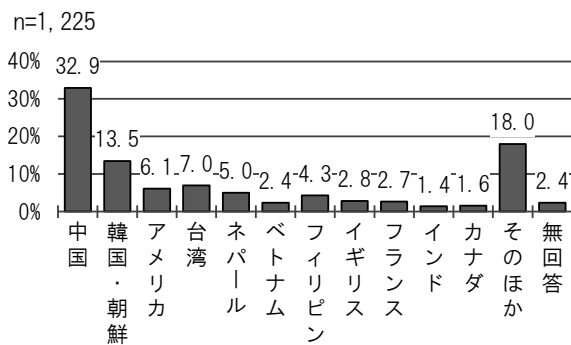
◆アンケート調査

(SA) …単数回答 (MA) …複数回答

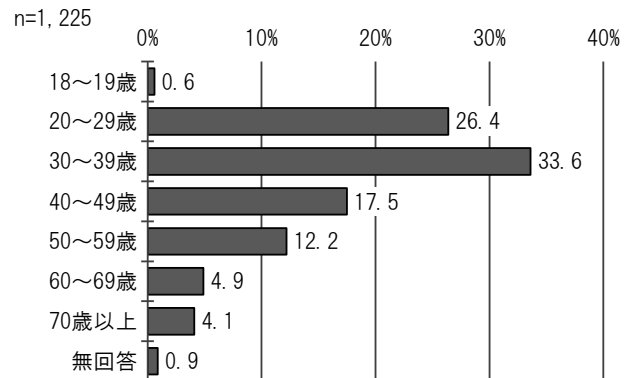
回答比率は百分率(%)で表し、小数点第2位を四捨五入して算出するため、単数回答であっても合計が100.0%にならない場合があります。

(1) あなたのこと

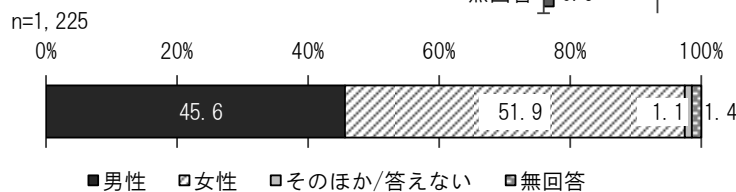
① 国籍・地域 (SA)



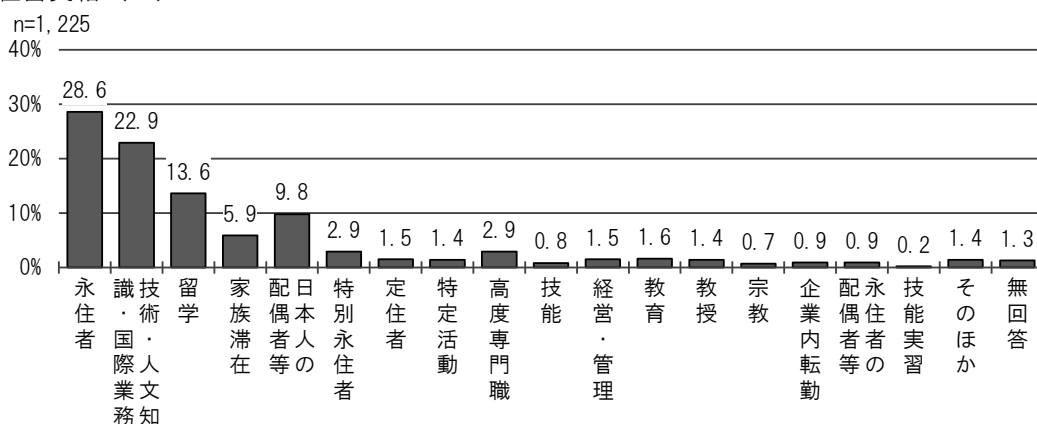
② 年齢 (SA)



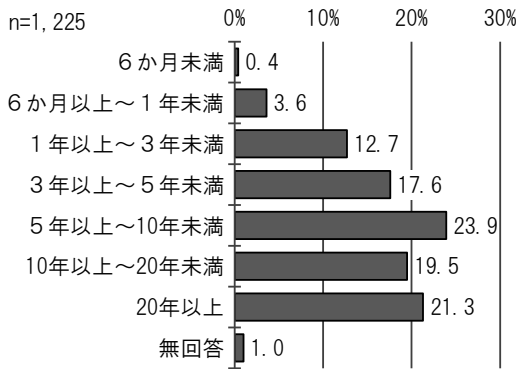
③ 性別 (SA)



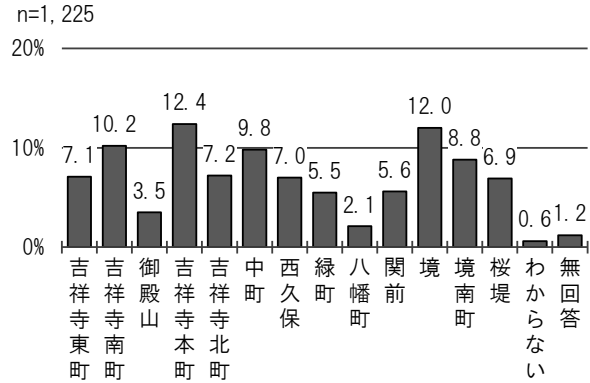
④ 現在の在留資格 (SA)



⑤ 居住年数 (SA)



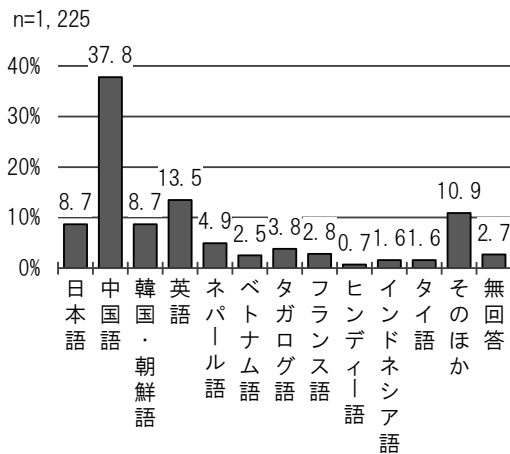
⑥ 住所 (SA)



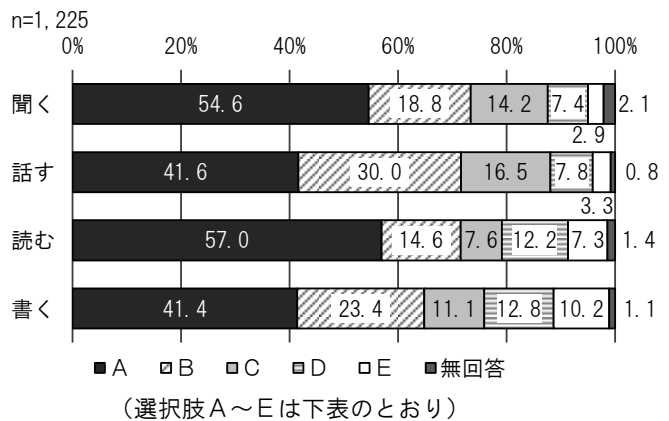
調査対象者と回答者の国籍・地域の構成比率は、ほぼ一致しています。年齢は、「30～39歳」が33.6%、「20～29歳」が26.4%と、40歳未満で6割を占めています。在留資格は、「永住者」が28.6%と最も多く、次いで「技術・人文知識・国際業務」が22.9%、「留学」が13.6%となっています。日本への居住年数は、10年以上の方が4割います。

(2) 言葉のこと

⑦ 第一言語 (SA)



⑧ 日本語習得状況 (SA)



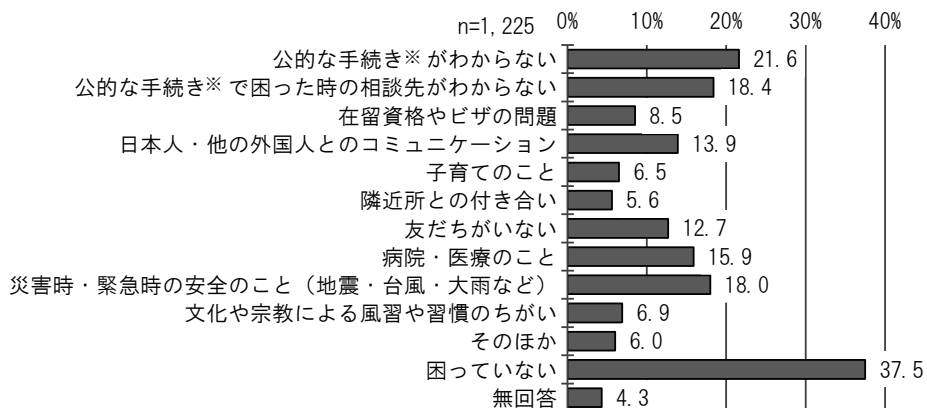
	A	B	C	D	E
聞く	ニュース、ドラマの内容を理解できる	相手の言うことは大体理解できる	相手がゆっくり話すことは理解できる	単語だけ聞き取れる	ほとんど聞き取れない
話す	自分の言いたいことが問題なく話せる	自分の言いたいことが大体話せる	簡単な日常会話ができる	自己紹介、決まったあいさつ、単語なら言うことができる	ほとんど話せない
読む	市役所や学校、職場からの手紙やお知らせを読んで、理解できる	市役所や学校、職場からの手紙やお知らせを読んで、少し理解できる	新聞・雑誌の広告やチラシ、駅の時刻表や案内板を見て、欲しい情報がとれる	絵のついた簡単な指示(例:ごみの捨て方、料理の作り方)がわかる	ほとんど読めない
書く	報告書やレポートで用いる文章を書くことができる	自己紹介や日常生活を伝える文章を書くことができる	まわりの人に伝える簡単なメモなどを書くことができる	名前や国名、住所などが書ける	ほとんど書けない

第一言語は、「中国語」が37.8%と最も多く、次いで「英語」が13.5%となっています。日本語習得状況は、「聞く」「読む」については、50%を超える方が高いレベルで習得しており、「話す」「書く」についても、多くの方がB程度までできていることから、おおむね日本語で意思疎通ができることがうかがえます。

(3) あなたが困っていること

⑨生活の中で不便を感じていることや困っていること (MA)

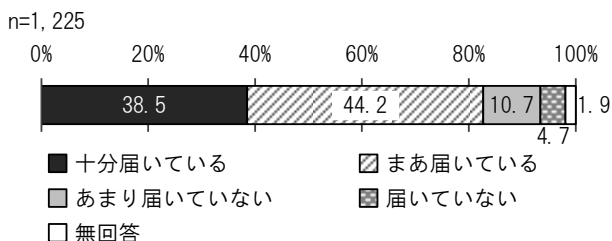
「公的な手続きがわからない」が21.6%、「公的な手続きで困った時の相談先がわからない」が18.4%と手続きに苦労していることがうかがえますが、「困っていない」が37.5%と最も多く、不便を感じることなく生活できている方も多くいます。



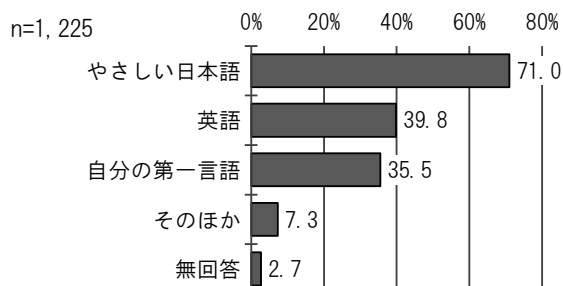
※公的な手続き：学校、幼稚園、保育園、健康保険、病院、税金、年金、ごみの出し方のこと。

(4) 情報や相談のこと

⑩必要な情報が届いているか (SA)

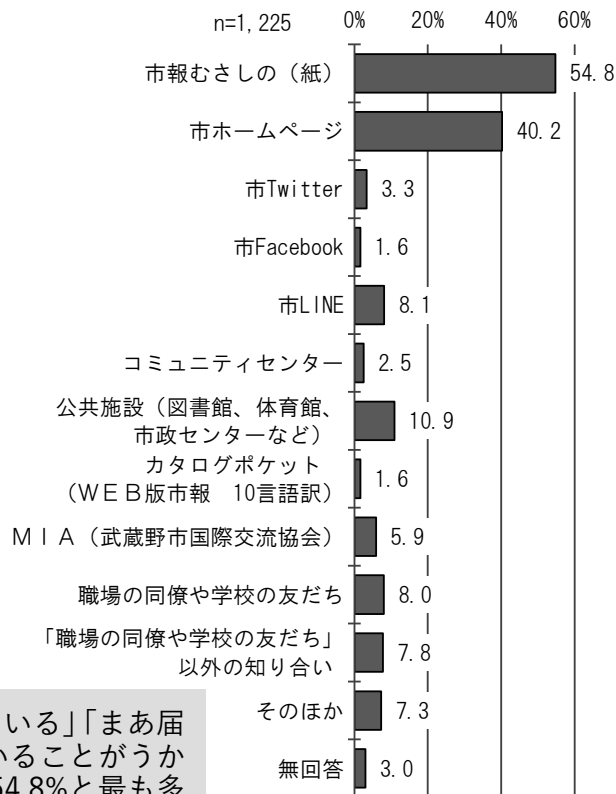


⑫市からの情報はどの言語だとわかるか (MA)



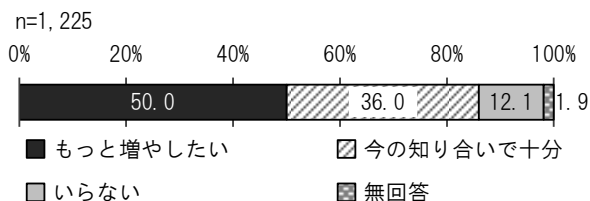
必要な情報が届いているかについては、「十分届いている」「まあ届いている」を併せると82.7%と多くの方に届いていることがうかがえます。情報入手先は「市報むさしの(紙)」が54.8%と最も多く、次いで「市ホームページ」が40.2%となっています。また、市からの情報は、「やさしい日本語」でわかる方が71%と最も多くなっています。

⑪ふだんの情報入手先 (MA)

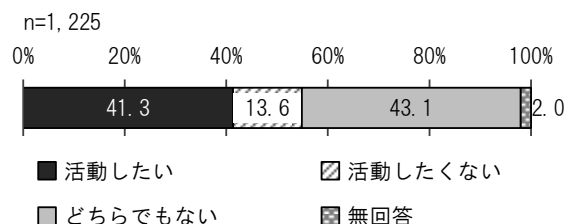


(5) 地域のこと

⑬地域に日本人の知り合いがほしいか (SA)



⑭地域の人の役に立つ活動がしたいか (SA)



地域に日本人の知り合いがほしいかについては、「もっと増やしたい」が50.0%、地域の人の役に立つ活動がしたいかについては、「活動したい」が41.3%で、地域で日本人と同じように活動したい意欲がうかがえます。

◆インタビュー 【主な意見】

(1) 情報入手方法・言語に関すること

- ▷ Google翻訳やスマホアプリなどの翻訳ツールを使用している。
- ▷ やさしい日本語での表記やルビがあればわかる。
- ▷ 内容を簡潔にしたほうがいい。「重要」「アクション必要」の2点を強調すべき。
- ▷ 母語（多言語）で書いてほしい。

(2) 多文化共生について

- ▷ 自然に接してほしい。壁を作らずに接してほしい。
- ▷ 外国人と日本人を分けなくて、一緒に一つの国に住んでいる人間として仲良くしてほしい。
- ▷ お互いの言語、文化を勉強する姿勢を持つといい。

属性別ヒアリング調査 【主な意見】

(1) 情報入手方法・言語に関すること

- ▷ 郵送された書類は翻訳アプリを用いるほか、MIAの日本語教室の先生に聞いたりしている。（日本語初学者）
- ▷ ホームページを翻訳アプリで読んでいる。（日本語初学者）
- ▷ 窓口に通訳がいれば一番良い。いない場合はゆっくり話してもらったり、書いたりしてもらいたい。書いてもらえれば持って帰ってゆっくり読むこともできる。また、漢字が多い方がわかりやすい。翻訳アプリ等は間違っていてわからない。（日本語初学者）
- ▷ 「日本語があまりできない」と伝えると、やさしい日本語で優しく対応してくれた。子ども関係の書類や、家族に頼まれた書類等の用件でも、やさしい日本語で対応してくれている。自分はやさしい日本語なら少しずつ理解できるようになっている。（日本語初学者）
- ▷ 書類は、英語で記載したり、漢字にふりがなを振ったりしていると良い。漢字には意味が複数あって難しいため、漢字ばかりではわからない。やさしい日本語も読みやすいと思う。（外国籍市民コミュニティ）
- ▷ やさしい日本語は助かるが、税、年金、国民健康保険等はやさしい日本語でもわからない。英語を話せる人がいれば安心できる。（日本語初学者）

(2) 多文化共生について

- ▷ 外国人としては、日本の文化を尊重し、学ぶ機会を持つこと。日本人は、外国人に対し、許容する態度があるといいと思う。許容されなかった経験があるわけではない。（日本語初学者）
- ▷ 文化の違いを尊重する、違いを生み出している背景を理解することが大切。（日本語初学者）
- ▷ 日本も他の国も、そのような文化があるんだ、という風にお互いに理解してほしい。そのような相互理解のためのイベントがあったらいいと思う。ぜひ参加したい。（外国籍市民コミュニティ）
- ▷ 日本人には、気を遣うことを少し控えてほしい。気持ちはありがたいが、わかっていることを毎回言われることは嫌だ。（市内大学留学生）

(3) その他

- ▷ 来日前は、友だちがつくれるか不安だった。言葉がわからないから、何を話したらいいのかわからず、不安な気持ちがあった。今は漢字が不安。（外国につながる子ども）
- ▷ イスラム教徒には、祈りの時間が毎日あり、祈祷場所や時間の確保のほか、ラマダン（断食）への配慮が必要で、そのサポートもしなければならぬ。女性にはヒジャブ（被り物）の習慣があり、当法人では許可しているが、許可していない法人もあるようだ。宗教に理解がない法人は、本人たちにとって働きやすい環境であるとはいえないだろう。（外国籍市民と関わりがある日本人）

情報発信の際に母語に訳して欲しいという意見もある一方で、スマートフォン等の翻訳ツール・アプリを使って理解している方もいることがわかりました。また、多文化共生については、文化や宗教の違い、国家間の関係への理解と配慮が必要な場合がありますが、壁を作らず自然に接して欲しいという意見がみられました。